

---

# 毎日三枚小説『影踏み』

藍田いずる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

毎日三枚小説『影踏み』

### 【Nコード】

N1297I

### 【作者名】

藍田いずる

### 【あらすじ】

幼い頃の彼女と一緒に影踏みして遊んでいる夢をみた。僕は会社に出向き混雑した車内で夢の事を考える。

幼い顔をした彼女と影踏みをしている夢をみた。もちろん小さい頃の彼女を僕はアルバムでしか見たことがないから、記憶を合成して現像した姿だった。

転勤が決まり、一緒に住んでいた三鷹のアパートを解約した。お互いの合意の上で彼女とは別れて今僕は新宿の本社へと向かっている。新しい自宅は会社の寮で下北沢にある。やけにガヤガヤしたうるさい町だ。三鷹に住んでいた時は車通勤だったが、今は電車。小田急線は挽肉にされそうな程の混雑ぶりで、乗っている間何をしてればいいかわからず夢の事を考えていた。

電車は新宿駅のプラットフォームに止まり会社員が駅にあふれ出す。僕の仕事は大方回りの営業と言っていていいだろう。アポを取った会社に自分の会社が新しく作った靴を売り込みに行くのが殆どの日課だ。車に乗るときも電車に乗るときも歩くときもビジネスシューズだから自分の会社の靴は履かない。そう考えると靴を知らない男が靴を売り歩いて居ることは詐欺みたいなものなのかもしれない。

でもそれでいいんだ。中途半端に知っているより知らない方が役に立つ。そう会社の先輩に教わった。

三鷹に居たときにはそこそこ営業成績も良かったのだが、どうも最近ぱつとしない。その原因はどこにあるのだろうか。

不況の影響はもちろんあるし、本社の営業の方が支社の営業より腕があるというのもあるだろう。

でもなにか喉に魚の骨が刺さったような息苦しさを感じてならない。「知ってるより知らない方がいいんだよ」

そう言っていたのは僕より3つ上の先輩だった。

「全てを知ってしまったら面白味はどんどん薄れていく。そう思うだろう？ 何か考えたり悩んだりするのは技術者の仕事だ。俺たちはただ新しい会社に売り込む。ただ売り込む事を考えればいいんだ

よ

ふと僕は顔を上げると自分の会社が見えた。

確かにその通りだ。何も考えない方がいいそう思うし、考えれば考えるほど深みに嵌る。

社会人なんてこんなものだ。

大きなビルの一つが僕の会社のオフィス。大きく影が伸びていた。そして僕は、最近自分の影を見ていない事に気がついた。回りのサラリーマンはビルの大きな影の中に足を踏み入れていく。そして影が飲み込まれていく。

考えてはならない事だ。夢が僕に何を言いたいのか。何故僕は自分の影に気がつかず生きていたのか。

今まで信じて来た者を、取捨選択したものを、今更振り返ったりはできない。

僕の影は少しずつビルの影に飲み込まれてまたいつ自分の影に気がつくか知れない。でもそれでいい。後ろ歩き用に作られた靴なんかないのだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1297i/>

---

毎日三枚小説『影踏み』

2010年11月11日19時35分発行